

2 環境施策進捗状況調査結果

基本目標1 自然を身近に感じられる“まちづくり”

■ 個別目標① 樹林地や農地を守り、育てる

● 樹林地・草地などの保全

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
樹林地の保全に市民などが参加できるしくみづくりを進めます。	農政課	地権者や市民を募集し竹林の伐採・枯れ木の除去などのボランティア作業を実施。あわせて草深の森の探索を行った。40名が参加。	地権者をはじめ、草深の森に関心を持つ人々に協力を仰ぎ、作業を通じ広く意見を聴取できた。
樹林地の減少につながる開発等の抑制を呼びかけます。	農政課	伐採等の面積の抑制や、植林の指導を行った。また、広報による周知を1回実施した。	適切な指導を行ってきたが、伐採等の面積が増えている。
緑地保全地区の指定による樹林地の保全を検討します。	都市整備課	平成22年度は当初より事業計画なし	現状では、市街地周辺の樹林地が多く残っており、ここが開発により失われる情勢ではないため、保全の検討に至っていない。
里山の保全・活用のしくみづくりを検討します。	環境保全課	自然探検隊を3回実施。 参加者のべ76人	環境学習を通し、市民に印西市に残された自然環境とそこに生息する生物の実態を確認し、市民の環境保全に対する意識の高揚が図られた。

● 農地の保全

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
農地の保全を図るため、必要な制度や体制づくりを進めます。	農政課	農業振興地域整備計画の管理を行い、農地の有効利用及び保全を推進した。地域住民による農地、農業施設、景観形成等の保全活動の支援を行った。	農業振興地域整備計画の管理を行うことにより、農地の有効利用及び保全をはかった。また、農地・水・環境保全向上対策の活動組織への支援を行うことにより、農地や農業施設の保全及び環境保全を図った。
地場農産物の品質向上など、地域の農業振興を支援します。	農政課	印西市農産物ブランド化戦略に基づき、農産物のブランド化を進めた。	何種類かの農産物をブランド化候補として検討を進めていくことができた。
農業後継者の育成、新規就農者に対する支援を進めます。	農政課	農業従事希望者に基礎的な農業知識を習得させるために農業研修を行い、農業版ハローワーク求職登録者の推進を図った。 農業研修:1回実施 研修受講者:11名	農業版ハローワーク求職登録者の推進を図ることにより、農家の労働力不足の解消や労働力の確保が図られた。
農産物の地産地消を推進し、産地直売による販路の拡大を図ります。	農政課	新鮮で安全な地場農産物等の学校給食及び保育園給食での利用を推進した。	新鮮で安全な地場農産物等の学校給食及び保育園給食での利用推進により、販路の拡大が図られた。
農用地区域の指定を継続します。	農政課	農業振興地域整備計画の管理を行い、農地の有効利用及び保全を推進した。	農業振興地域整備計画の管理を行うことにより、農地の有効利用及び保全が図られた。
生産緑地地区の指定を継続します。	都市整備課	生産緑地地区の指定を継続した。 (26,579㎡)	生産緑地地区の指定を継続した。 (26,579㎡)
市内の遊休農地対策を進めます。	農政課	遊休農地再生対策協議会が耕作放棄地再生利用緊急対策実施要綱に基づく耕作放棄地再生利用事業を実施し、195aの耕作放棄地を解消した。	遊休農地再生対策協議会が耕作放棄地を再生し、解消を図った。

● 樹林地や農地とのふれあいの場の創出

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
市民が森の中で遊び、森林浴や休養することのできる、「市民の森」の充実を図ります。	農政課	草刈約 1,000 ㎡。	草刈作業やボランティアの協力により森がより利用しやすいようになった。
地域森林計画対象民有林などによる、市民などに樹林の大切さを啓発するための事業を進めます。	農政課	間伐 6,700 ㎡	森林の保全・育成ができた。
消費者の農業理解を図るため、農業イベントや交流会などを開催・支援します。	農政課	産業まつりを牧の原駅圏(BIG HOP 駐車場内)開催した。 来場者数: 30,000 人	産業まつりを実施し、生産者と消費者の交流を行い、安全・安心な顔の見える農業を推進した。
土や自然に親しみ、市民と農業のふれあいの場となっている「ふるさと農園」の充実を図ります。	農政課	ふるさと農園を 213 人の方が利用した。	農業にふれあうことにより農業を身近に感じていただき、環境保全に対する意識の高揚を図った。

■ 個別目標② さまざまな生き物を守る

● 生き物の生育・生息環境の保全・創出

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
公共施設などの整備に関する計画策定やほ場整備事業実施にあたっては、多自然型工法の採用など、自然環境への配慮を充分行います。	関係各課	事業実施なし	事業実施なし
県や関係市町村と協力し、手賀沼、印旛沼流域の水生物の再生事業を進めます。	環境保全課	手賀沼流域の小・中学校にガシャモクの育成を継続して実施していただいた。	継続してガシャモクの育成を実施していただくことができた。
希少な野生生物の生育・生息環境の調査を実施し、保護方法を検討します。	環境保全課	モニタリング調査に替わるものを検討した。 市の実施する環境調査は、23 年度実施	モニタリング調査に替わるものを検討したが、特にいい案が出ていない。
生き物の密猟や本来の生態系を侵食する外来種の移入などに対し、監視を行うとともに、市民等への普及啓発を図ります。	環境保全課	外来種に関する情報を広報等で掲載し普及啓発を実施。 カミツキガメの捕獲。 アライグマの防除。	外来生物の情報を広報及びホームページにより周知。 ・カミツキガメの捕獲 5 匹 ・アライグマの捕獲 15 匹

● 調査・観察会などの継続実施

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
野生動植物の生育、生息環境の保全に関する意識啓発を図ります。	環境保全課	自然探検隊を 3 回実施。 参加者のべ 76 人	環境学習を通し、市民に印西市に残された自然環境とそこに生息する生物の実態を確認し、市民の環境保全に対する意識の高揚が図られた。
市民参加による生き物のモニタリング調査を継続します。	環境保全課	モニタリング調査に替わるものを検討した。	モニタリング調査に替わるものを検討したが、特にいい案が出ていない。
自然探検隊等の観察会を通じて、さまざまな動植物が生育・生息する環境の保全意識の高揚を図ります。	環境保全課	自然探検隊を 3 回実施。 参加者のべ 76 人	環境学習を通し、市民に印西市に残された自然環境とそこに生息する生物の実態を確認し、市民の環境保全に対する意識の高揚が図られた。

■ 個別目標③ 親しみのある水辺をつくる

● 水辺環境の保全

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
自然環境や周辺の景観と調和した水辺空間の形成を関係機関へ要請します。	土木管理課	草刈業務 6,346 ㎡(年 2 回) 伐根除草 618 ㎡(年 2 回)	NPO との企画提案型協働事業を通じ、水辺環境の適切な維持・管理を行うことができた。
市民などによる水辺環境の維持・管理を支援します。			
市内に存在する湧水の数と位置を把握した上で、水量や水質について現地調査を実施します。	環境保全課	手賀沼水環境保全協議会において手賀沼流域の湧水調査を市民とともに実施。	手賀沼協働調査を市民と実施することができたが、参加人数が少ない状況であった。
多自然型工法を用いた河川、農業用水路の整備を要請します。	環境保全課	改修工事計画なし。	改修工事計画ないことから要請はしていない。 今後改修工事計画ができた時は要請していく。

● 水辺とのふれあいの場の創出

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
調整池などの整備を進め、野鳥、植物、昆虫等の自然観察のできる場所の設置を検討します。	関係各課	調整池等の整備は実施していないが、企画提案型協働事業として竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業を実施した。(都市整備課)	いつもきれいで気持ちよく利用できる水辺の憩いの場を市民に提供できた。(都市整備課)
水辺に近づけない調整池では、外周部から野鳥や植生を見て楽しむことができるような観察会を開催します。	環境保全課	自然観察会で実施する予定であった利根川沿いの観察会は地震のため中止。	—

■ 個別目標④ まちの緑を増やす

● 公用地内の緑化

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
市民の日常生活に密着した、身近な公園及び運動などのための総合公園を計画的に整備します。	都市整備課	祭りの広場の整備を行った。	松山下公園の整備が概ね完了することができた。
公園や公共施設の整備に際し、「環境木」の情報を提供するとともに、植栽を依頼します。	環境保全課	公用地等への植栽実績なし。	—
市民参加による公園や緑地の管理を支援します。	都市整備課	市民参加により公園等の散乱ゴミ等が減少するとともに環境美化が保たれた。(美化活動協定締結数 18 団体)	市民参加により公園等の散乱ゴミ等が減少するとともに環境美化が保たれた。

● 民有地内の緑化

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
住宅地の緑の創出を図るため、緑化を要請します。	都市整備課	印西市開発行為等指導要綱に基づき、戸建住宅へ開発する際、各区分に生垣等の植栽を積極的に行うよう要請した。	印西市開発行為等指導要綱に基づき、戸建住宅へ開発する際、各区分に生垣等の植栽を積極的に行うよう要請した。
事業所、商業施設の敷地、駐車場の緑化を要請します。	都市整備課	開発行為の指導により開発面積の 5% 以上の緑地の確保を要請した。	開発行為の指導により開発面積の 5% 以上の緑地の確保を要請した。

● 緑化推進のための人づくりと情報発信

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
広報紙、パンフレット、インターネットなどにより、花や緑に関する情報提供やイベントの普及を図ります。	都市整備課	広報等により県立北総花の丘公園の情報を提供し、緑化の推進を図った。	広報等により県立北総花の丘公園の情報を提供し、緑化の推進を図った。

■ 個別目標⑤ 歴史や文化を大切にする

● 歴史文化財の保存

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
「木下貝層」、「宝珠院観音堂」など文化財指定地の保護・保存を図ります。	生涯学習課	管理者・地域住民の協力を得て、史跡の清掃・管理を行った。	文化財指定地の保護・保全により、環境保全を行った。
文化財の調査研究を推進します。	生涯学習課	市内仏像調査(9地区・156体)、石造物調査(中根地区・4回)を実施した。	当初計画通り調査を実施し、資料の充実が図られた。
		師戸宗像神社大祭映像を記録した。	予定通り記録を行うことができた。

● 巨樹・巨木林などの保全

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
巨樹・巨木林の位置を把握したうえで、生育状況について実態調査を実施します。	環境保全課	巨樹、巨木林等調査を実施。	基礎調査結果として、今後の保全策等に活用する。

● 歴史的文化的環境とのふれあい創出

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
ガイドマップなどにより、歴史や文化についての普及啓発を図ります。	生涯学習課	ふるさと案内人協会事業の後援等を通じ、市内の文化財、自然環境に触れる機会の提供を側面から支援した。	歴史、文化の諸事業を通じて普及・啓発を行った。
		市域の指定文化財を紹介した企画展示のパンフレットを作成し、希望者に配布した。	展示を見ることができなかった人(来館できない人)にも周知を図ることができた。

基本目標2 安心して生活できる“暮らしづくり”

■ 個別目標⑥ 空気をきれいにする

● 大気汚染対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
公用車等に低公害車を導入します。	管財課	公用車 7 台(普通乗用車 4 台、小型乗用車 3 台)を処分した。	公用車 7 台(普通乗用車 4 台、小型乗用車 3 台)を処分し、大気汚染の軽減に努めることができた。
低公害車や公共交通機関の利用促進に向けた呼びかけを行います。	環境保全課	庁内エコプラン(市)、環境行動指針(市民等)等により、エコドライブの推進を図った。 平成 22 年 11 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日までの期間、「アイドリングストップ等による大気汚染物質削減計画」を実施し、広報に掲載することにより市民への普及啓発を図った。 広報掲載回数 1 回	市民意識調査の結果では、約6割の方が、エコドライブを実施しており意識の高揚が見られた。
アイドリングストップなど、環境にやさしい運転の普及啓発を図ります。			
工場・事業場などからの排出ガス抑制、焼却炉の適正使用に関する普及啓発と指導を行います。	環境保全課	年 2 回広報により、基準外焼却炉を使用している焼却行為の禁止を周知した。	基準外焼却炉を使用している焼却の確認はされていないため、大気汚染の防止が図られている。
焼却炉の適正使用を含め、野焼き防止の普及啓発と指導を行います。			
公園や公共施設の整備に際し、「環境木」の情報を提供するとともに、植栽を依頼します。(再掲)	環境保全課	公用地等への植栽実績なし。	—

● 悪臭防止対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
悪臭を放つおそれのある施設及び物質について、管理者への指導を行うとともに、必要に応じて現地調査を実施します。	環境保全課	悪臭を発生させた管理者に対し、対処するよう指導を行った。	特定施設・特定建設作業以外で悪臭があったが、法的根拠がないため、指導には限界があった。

● 監視・測定の継続実施

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
県や周辺市町村と連携して大気汚染対策を進めるとともに、大気調査を実施します。	環境保全課	大気ダイオキシソ類環境調査を実施、測定結果を県に報告した。 夏冬 2 回 2 地点	継続して大気ダイオキシソ類環境調査を実施しているので、大気状況が把握できている。
情報を共有するなど、周辺市町村と連携して、悪臭防止対策を進めます。	環境保全課	関係課と協力し、定期的に畜産業の立入り等を実施した。	把握している事業所のほか新たな問題等は発生していない。

■ 個別目標⑦ 水や土をきれいにする

● 排水対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
生活排水の環境負荷軽減に関する普及啓発を図るとともに、市民の活動を支援します。	環境保全課	手賀沼水環境保全協議会、印旛沼水質保全協議会で実施する各事業に協力。市民団体が主催する手賀沼流域フォーラムイベントに協力。	流域市町村と連携をとりながら、水質保全に対する意識啓発を実施することができた。また、市民が実施するイベントに協力することができた。
工場・事業場などからの排水に対する指導を行います。	環境保全課	特定施設への立入等は実施しなかった。	立入等を行い、特定施設の適正管理を促していきたい。
公共下水道の整備を推進します。	下水道課	岩戸地区公共下水道 A=0.8ha	計画的に整備が進められた。
合併処理浄化槽の設置を推進します。	環境保全課	合併処理浄化槽の設置補助の継続実施及び設置推進のための啓発活動を実施 合併処理浄化槽補助 98 基 転換補助 53 基	生活排水対策のための補助及び設置推進のための普及啓発が図られた。
公共下水道の接続率(水洗化率)の向上のためのPRに努めます。	下水道課	下水道の日に係る啓発物資としてティッシュ等を購入し配布した。また、小学4年生用副読本「下水道を学ぼう」を配布した。	水洗化率向上のための普及啓発が図られた。
廃食用油の回収を進めます。	クリーン推進課	廃食用油の拠点回収についてホームページや広報紙への掲載により1,464kgの廃食用油を回収した。	前年度に対し、560kgの回収減となったが、これは東日本大震災により年度末の処理ができなかったためであり、回収実績は安定化しており、再資源化に貢献している。

● 土壌汚染・地下水対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
環境負荷の少ない環境保全型農業を推進します。	農政課	千葉県が推進する、ちばエコ農業の普及啓発を実施。	ちばエコ農業の普及促進を図ることができた。認証件数30件。
産業廃棄物の不法投棄や不法な残土の埋立てなどの防止のため、監視体制の強化・普及啓発を図ります。	クリーン推進課	下記の業務を実施した。 職員パトロール回数 21 回 委託パトロール回数 160 回 不法投棄監視員 月 4 回 監視カメラ運用台数 11 台 監視カメラ移設台数 5 台 広報掲載回数 2 回 ホームページ掲載 随時 不法投棄現場調査 90 日 協働撤去 25 現場 111 トン 警察通報 14 件 北総県民センター通報 21 件 行為者の特定 13 件	各パトロール業務については、巡回と併せ、不法投棄多発地区におけるピンポイントの定点監視を実施したこと、監視カメラの移設先を地元町内会等と十分に検討したこと及び啓発業務を継続実施したことで、効果的な不法投棄の防止を図ることができた。 合併後における市内全域の不法投棄現場調査を実施し、既存現場の実態を把握したことから、今後、当該現場の不法投棄物を計画的に撤去することが可能となった。 長期に渡り地域問題となっていた民有地における大規模な不法投棄現場を町内会等との協働により撤去し、再発防止策として総延長 410m の竹柵を設置したことで、問題解決を推進した。 警察・北総県民センターとの連携により、13 件における不法投棄行為者を特定した。
工場・事業場・建設作業における汚染防止のための指導を行います。	環境保全課	周囲に影響を及ぼすような汚染の発生はなかった。	周囲に影響を及ぼすような汚染の発生はなく、事業所等の適正管理が行われていると思われる。
雨水浸透施設の普及を進めます。	関係各課	開発行為申請者より事前協議があった際には、雨水浸透施設及び透水性舗装など環境に配慮するよう協力を要請した。(環境保全課)	雨水浸透施設及び透水性舗装など環境に配慮していただけた。(環境保全課)
地下水の適切な利用について、指導・普及啓発を行います。	環境保全課	新規設置許可 1 件 未規制揚水施設任意立会い 1 件	揚水施設の規制についても、必要最小限とし、他水源のある未規制口径の揚水機についても、任意で立会いを行ったことにより、地下水の適正利用が図られた。
町営塵芥焼却場跡地の環境調査を実施します。	環境保全課	継続してモニタリング調査の実施。	モニタリング調査の結果からは、特に汚染物質の流出はない。
歩道改良工事の際には、透水性舗装等の環境に配慮した整備を推進します。	建設課	市道 00-031 号線及び市道物木滝線の整備に伴い、歩道を透水性舗装により整備した。	目標通り、透水性舗装を施工できた

● 監視・測定の継続実施

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
河川水、地下水(地下水位を含む)、工場排水などの定期監視体制を充実します。	環境保全課	異常水質による通報 2 件	水質事故が起きたときのため、連絡体制は整えておく。
県や周辺市町村と連携して水質汚濁の防止対策を進めます。	環境保全課	手賀沼・印旛沼の水質改善のため、県・周辺市町村と連携して、普及啓発及び浄化対策事業を実施した。 合併処理浄化槽の設置補助の継続実施及び設置推進のための啓発活動を実施した。	手賀沼・印旛沼の水質改善のための普及啓発及び浄化対策を進めることができた。 合併処理浄化槽の設置補助の継続して実施したことにより生活排水対策が進んだ。
市民などが実施する水質調査を支援します。	環境保全課	市民団体が主催する手賀沼のイベントの際にバックテストを貸し出した。 手賀沼水環境保全協議会で実施している河川・湧水の協働調査に市民に参加いただいた。	市民に水質保全に対する意識の高揚を図っていただくことができた。

■ 個別目標⑧ 騒音や振動などを低減する

● 自動車の騒音・振動対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
アイドリングストップなど、環境にやさしい運転の普及啓発を図ります。(再掲)	環境保全課	市内エコプラン(市)、環境行動指針(市民等)等により、エコドライブの推進を図った。 平成22年11月1日～平成23年1月31日までの期間、「アイドリングストップ等による大気汚染物質削減計画」を実施し、広報に掲載することにより市民への普及啓発を図った。	市民意識調査の結果では、約6割の方が、エコドライブを実施しており意識の高揚が見られた。
道路の適正な維持・管理に努めます。	土木管理課	道路維持工事(6箇所) 道路補修工事(市内全域)	道路の適正な維持・管理に努めることができた。
騒音・振動の実態調査を継続的に実施します。	環境保全課	市道00-005号線において、自動車騒音、振動の測定を行った。 騒音では、環境基準を超えていた。	環境基準を超えており、平成16年度の同地点の測定値より高かった。
県や関係機関に対して騒音・振動対策の充実・強化を働きかけます。	環境保全課	道路管理者に測定結果を送付した。	道路付近の居住者の騒音振動の状況を伝えることができた。

● 工場・事業場などからの騒音・振動対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
事業所・商業施設、建設作業における騒音・振動防止のための指導を行います。	環境保全課	特定施設、特定建設作業、特定作業の届出を受理した。	届出の中で適正化を図った。
生活騒音についての知識やモラルの普及啓発を図ります。	環境保全課	ポスターを環境保全課窓口に掲示した。	ポスター掲示により生活騒音の問題について周知を図ることができた。

● 光害対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
住民や動植物等への影響を考慮し、ネオンサインなど屋外照明の適正化を指導します。	環境保全課	屋外照明の使用のおそれがある施設に対し、適正使用を呼びかけた。	適正使用を呼びかけたことにより、影響の防止を図れた。
道路照明などは周辺環境を踏まえた上で適切に設置します。	関係各課	警察協議の中で、必要だと思われる箇所に照明を設置した。(建設課)	警察協議の中で、必要だと思われる箇所に照明を設置した。(建設課)

■ 個別目標⑨ 有害化学物質による汚染を防ぐ

● 有害化学物質の排出防止対策

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
焼却炉の適正使用を含め、野焼き防止の普及啓発と指導を行います。(再掲)	環境保全課	年2回広報により、基準外焼却炉を使用 しての焼却行為の禁止を周知した。	基準外焼却炉を使用しての焼却の確認 はされていないため、大気汚染の防止が 図られている。
広報やホームページ等で有害化学物質に関する情報を提供し、有害化学物質の適正処理・管理を周知します。	環境保全課	チラシ等を含め有害化学物質の適正処 理・管理を周知した。	チラシ等を含め有害化学物質の適正処 理・管理を周知し、情報提供をすることが できた。
公共施設内の緑の維持管理には、除草剤・殺虫剤・殺菌剤を必要以上に使用しません。	関係各課	公園、街路樹、学校敷地内などの緑の維 持管理に対する除草剤・殺虫剤・殺菌剤 の使用は必要最低限とした。(都市整備 課・土木管理課・教育総務課)	公園、街路樹、学校敷地内などの緑の維 持管理に対する除草剤・殺虫剤・殺菌剤 の使用は必要最低限とした。(都市整備 課・土木管理課・教育総務課)
有害化学物質汚染が確認された場合、原因究明とその再発防止の指導を行います。	環境保全課	汚染の確認はなかった。	汚染の確認はなかったが、情報収集を含 め監視の強化を図りたい。
県や周辺市町村、印西クリーンセンターなどと連携して、ダイオキシン類等の有害化学物質対策を継続して進めます。	環境保全課	市内2箇所で大気ダイオキシン類の測定 を実施し、測定結果は、環境基準内であ った。	ダイオキシンの発生の抑制や焼却施設 の適正管理が図られている。

● 有害化学物質に関する情報の収集・提供

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
県や周辺市町村とも連携して、有害化学物質の情報収集に努め、市民・事業者に分かりやすく情報を提供します。	環境保全課	監視している中で、特に悪化の恐れがあ る有害物質はなかった。	特に悪化の恐れがある有害物質はなか ったが、情報収集を含め、監視体制の強 化を図りたい。
有害化学物質等に対する新たな取組みについて、市民・事業者 者に情報提供します。	環境保全課	新たな取組などはなかった。	取組などはなかったが、継続して情報収 集を図りたい。

■ 個別目標⑩ エネルギーを有効に利用する

● 省資源・省エネルギーの推進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
公用車等に低公害車を導入します。(再掲)	管財課	公用車 7 台(普通乗用車 4 台、小型乗用車 3 台)を処分した。	公用車 7 台(普通乗用車 4 台、小型乗用車 3 台)を処分し、大気汚染の軽減に努めることができた。
低公害車や公共交通機関の利用促進に向けた呼びかけを行います。(再掲)	環境保全課	庁内エコプラン(市)、環境行動指針(市民等)等により、エコドライブの推進を図った。 平成 22 年 11 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日までの期間、「アイドリングストップ等による大気汚染物質削減計画」を実施し、広報に掲載することにより市民への普及啓発を図った。 広報掲載回数 1 回	市民意識調査の結果では、約6割の方が、エコドライブを実施しており意識の高揚が見られた。
省資源・省エネルギーに関する取組みを市民などにわかりやすく情報提供するとともに、環境家計簿の記入を呼びかけます。	環境保全課	環境推進市民会議の開催 イベントでの環境家計簿の普及促進。 環境家計簿 68 枚提出	環境家計簿の普及(68 枚提出)とともに省エネルギー行動の普及啓発を図ることができた。
公共施設での省エネルギーを推進します。	環境保全課	各課に環境推進主任を設置。 庁内エコプランによる市庁舎等での省エネルギーを推進。	庁内エコプランの推進により、公共施設での省エネルギーの推進を図ることができた。
公共施設の改修の際には、エネルギーを有効に利用できる設備の導入を検討します。	管財課	内野小学校改修 照明器具、トイレ等の改修(教育総務課)	照明器具の省エネ化、トイレの節水等によりエネルギーの有効利用に努めることができた。(教育総務課)
「(仮称)地球温暖化対策地域推進計画」の策定を検討します。	環境保全課	引き続き策定を検討。	県内においても、まだ計画の策定をしている市町村も少なく、あまり情報を得ることはできなかった。

● 新しいエネルギーの利用促進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
公共施設の改修の際には、太陽光発電等の自然エネルギー設備の導入を検討します。	管財課	内野小学校改修 太陽光発電システムの導入(20kWh)(教育総務課)	自然エネルギーの有効活用に努めることができた。 電気使用量 約▲10%(教育総務課)
自然エネルギーの導入について、市民等に情報提供、普及啓発を図ります。	環境保全課	太陽光発電システム及び太陽熱利用温水器の設置補助について、ホームページ・広報等で市民に周知し、普及啓発を実施。	太陽光発電システム及び太陽熱利用温水器の設置補助を実施することにより、市民に自然エネルギーの普及及び省エネルギーについて啓発することができた。
太陽光発電システム等設置補助金を交付します。			
		補助実施件数 太陽光発電システム 146 基 太陽熱利用温水器 13 基	

■ 個別目標⑪ ごみの量を減らし、資源の循環を進める

● ごみの排出抑制(リデュース)

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
ごみの排出量、資源化状況、ごみの分け方・出し方などについての情報提供体制の拡充を図ります。	クリーン 推進課	ごみの分け方・出し方ガイドの配布やホームページでの掲載、公共施設や店頭において、ごみの分別による減量化、資源化の普及啓発を実施した。	一人1日当たりのごみの排出量において、家庭系ごみで対前年度 5g減の 720g、全体ごみ量でも対前年度 15g減の 872gとなり、ごみの減量化が図られた。
マイバッグの利用を普及・促進し、レジ袋の削減を推進します。	クリーン 推進課	マイバッグの推進とレジ袋削減のための意識啓発として、広報紙及びホームページに掲載した。	一人1日当たりのごみの排出量において、家庭系ごみで対前年度 5g減の 720g、全体ごみ量でも対前年度 15g減の 872gとなり、ごみの減量化が図られた。
ごみ問題に関して興味・関心を持てる機会をつくり、正しい理解を深めるとともに、市民などの自発的なごみ減量活動を支援します。	クリーン 推進課	ごみの分け方・出し方ガイドの配布やホームページでの掲載、公共施設や店頭において、ごみの分別による減量化、資源化の普及啓発を実施した。	一人1日当たりのごみの排出量において、家庭系ごみで対前年度 5g減の 720g、全体ごみ量でも対前年度 15g減の 872gとなり、ごみの減量化が図られた。
ごみの分別排出・適正排出の徹底を促進するとともに、ごみの発生抑制・減量意識を高めます。	クリーン 推進課	ごみの分け方・出し方ガイドの配布やホームページでの掲載、公共施設や店頭において、ごみの分別による減量化、資源化の普及啓発を実施した。	一人1日当たりのごみの排出量において、家庭系ごみで対前年度 5g減の 720g、全体ごみ量でも対前年度 15g減の 872gとなり、ごみの減量化が図られた。
「環境にやさしい行動」を市民にエコモニターとして実践してもらい、広く紹介し、意識啓発を図ります。	環境保全課	環境推進市民会議の開催イベントでの環境家計簿の普及促進。環境家計簿 68 枚提出	環境家計簿の普及(68 枚提出)とともに省エネルギー行動の普及啓発を図ることができた。
「生ごみ処理容器等購入費補助金制度」のPR強化による生ごみ処理容器・生ごみ処理機の普及促進などにより、生ごみの減量を推進します。	クリーン 推進課	広報紙やホームページにより補助制度の周知、啓発を行った。 補助金交付件数 68 件	一人1日当たりのごみの排出量において、家庭系ごみで対前年度 5g減の 720g、全体ごみ量でも対前年度 15g減の 872gとなり、ごみの減量化が図られた。
ごみ有料化について、事業系ごみのみならず家庭系ごみについても段階的な取組みを検討していきます。	クリーン 推進課	環境基本計画に基づく、環境に関する市民・事業者意識調査において、粗大ごみの有料化についてアンケート調査を実施した。	粗大ごみの有料化に対する住民意識の把握ができた。
農業用廃プラスチックのリサイクルを進めます。	農政課	印西市農業用廃プラスチック対策協議会の農業用廃プラスチックの回収を支援した。(廃プラスチック回収量 11.9t)	印西市農業用廃プラスチック対策協議会への支援を実施することにより、農業用廃プラスチックの適正な処理及びリサイクルの推進が図られた。

● 再利用(リユース)・資源化(リサイクル)の推進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
資源物の拠点回収品目及び拠点回収場所を追加するなど、資源物収集体制の整備を進めます。	クリーン 推進課	廃食油の拠点回収場所を8箇所から13箇所に、廃乾電池・紙パックの拠点回収場所を9箇所から15箇所に拡大した。	拠点回収体制の拡大が図れた。
自発的なリサイクルシステムの促進のため、「有価物集団回収事業」を広く周知し、資源回収の基盤となるよう一層の拡充に努めます。	クリーン 推進課	ホームページ等で有価物集団回収事業のPRを継続した。 平成22年度末登録団体数 112 団体 (印西 100、印旛 8、本埜 4)	前年度と比較して登録団体数が7団体の増、回収量についても約55t増加した。
「グリーン購入推進指針」に基づき、市役所や市出先機関などにおいて、リサイクル品の積極的な購入・使用などを率先して実行します。	環境保全課	環境推進主任説明会等において、グリーン購入推進指針の周知徹底を図った。	リサイクル品等の積極的な購入・使用を促すことができた。
積極的な再利用を進めるため、不用品情報交換コーナーの利用促進を図ります。	クリーン 推進課	広報、ホームページ等で不用品情報の掲載を実施し、14件の交渉が成立した。	広報、ホームページから不用品情報が提供され、再利用が促進された。
市の事業や建設工事の際には、再生資材等の使用やリサイクルを推進します。	関係各課	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律に基づき、再生資材の利用を促進し、建設副産物の再資源化を図った。 (建設課)(土木管理課)	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律に基づき、再生資材の利用を促進し、建設副産物の再資源化を図った。 (建設課)(土木管理課)

■ 個別目標⑫ 不法投棄やポイ捨てをなくす

● 不法投棄・ポイ捨ての防止

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
不法投棄監視パトロール、通報 制度の整備など監視体制の強 化を図ります。	クリーン 推進課	下記の業務を実施した。 職員パトロール回数 21 回 委託パトロール回数 160 回 不法投棄監視員 月 4 回 監視カメラ運用台数 11 台 監視カメラ移設台数 5 台 広報掲載回数 2 回 ホームページ掲載 随時 不法投棄現場調査 90 日 協働撤去 25 現場 111トン 警察通報 14 件 北総県民センター通報 21 件 行為者の特定 13 件	各パトロール業務については、巡回と併 せ、不法投棄多発地区におけるピンポイ ントの定点監視を実施したこと、監視カメ ラの移設先を地元町内会等と十分に検 討したこと及び啓発業務を継続実施した ことで、効果的な不法投棄の防止を図る ことができた。 合併後における市内全域の不法投棄現 場調査を実施し、既存現場の実態を把握 したことから、今後、当該現場の不法投 棄物を計画的に撤去することが可能とな った。 長期に渡り地域問題となっていた民有地 における大規模な不法投棄現場を町内 会等との協働により撤去し、再発防止策 として総延長 410mの竹柵を設置したこと で、問題解決を推進した。 警察・北総県民センターとの連携により、 13 件における不法投棄行為者を特定し た。
不法投棄・ポイ捨てに関する意 識啓発を図ります。	クリーン 推進課	職員による重点区域での啓発や指導員 によるパトロールの実施及び禁止行為の 指導等を行った。また、広報等で不法投 棄防止の情報提供を行った。 過料件数 26 件	広報等を利用し、条例を周知するととも に、指導員によるパトロール等の実施及 び啓発活動により市民に理解された。
土地の所有者への情報提供・ 意識啓発により、不法投棄の防 止を図ります。	クリーン 推進課	広報、ホームページ等にて不法投棄防止 の情報提供を行った。 また、不法投棄防止のため、看板の貸与 を実施した。 広報掲載回数 2 回 看板貸与件数 5 件	広報、ホームページ等を利用し、不法投 棄に関する情報提供及び土地所有者へ の不法投棄防止対策を呼び掛け、意識 啓発を図ることができた。

● 環境美化活動の推進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
「ゴミゼロ運動」、「クリーン印西 推進運動」を継続実施し、環境 美化に対する意識啓発を図ります。	クリーン 推進課	下記の運動を実施した。 ゴミゼロ運動 参加者 12,992 人 回収量 35,750 kg クリーン印西推進運動 参加者 40,549 人 回収量 26,060 kg 統一美化キャンペーン 参加者 7,055 人 回収量 12,460 kg	ゴミゼロ運動、クリーン印西推進運動及 び統一美化キャンペーンを通じて、のべ 60,596 人の参加をいただき、環境美化意 識の向上を図ることができた。
市民や各種団体などの環境美 化活動を支援します。			

基本目標3 みんなで環境を育てる“しくみづくり”

■ 個別目標⑬ 環境情報のネットワークをつくる

● 環境情報の収集・提供

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
「印西市環境マップ」を作成し、環境保全意識の啓発を図ります。	環境保全課	モニタリング調査に替わるものを検討した。	モニタリング調査に替わるものを検討したが、特にいい案が出ていない。
ホームページや広報などで環境情報を提供します。	環境保全課	広報に情報を掲載するとともにホームページに情報を掲載した。	広報やホームページで様々な環境情報を提供することにより、市民に環境に対する意識啓発を図ることができた。
図書館では期間限定で環境に関する資料の紹介を行います。	図書館	資料展示の代わりに、夏休みに親子で参加できる家庭教育向け事業として、「親子で学ぼう身近な環境と自然」という講座を実施した。	NPO法人水の郷ネットワークや環境保全課の協力により、船に乗り、弁天川や手賀沼の水質を調べたり、鳥や魚など身近に住む生き物の観察、また関連した資料の紹介を行なうことで、親子で自然環境について関心を深めることができた。
学校図書館では環境コーナーの書籍を充実し、活用を進めます。	指導課(教育センター)	・市内各校で環境に関する書籍を計画的に購入。 ・市内小中学校16校において、環境コーナーを設置。	・22年度は学校図書館のデータベース化事業を行ったため、図書室への環境コーナーの設置が進まなかった。
学校教育のための環境に関する情報や教材を提供します。	環境保全課	環境白書など環境啓発物資を小・中学校に配布。 中央公民館事業「市民アカデミー」において環境学習の実施。 図書館事業において手賀沼の環境学習で講師。	印西及び周辺の環境を知る上で必要な資料及び環境教育に必要な情報を提供。
「環境フェスタ」等の環境イベントへの参加・協力を呼びかけます。	環境保全課	環境フェスタ、環境関連施設の見学会を継続して実施。 市民団体が主催する手賀沼流域フォーラムイベントの周知及び協力を実施。	各種イベントの開催などにより市民に意識啓発を図ることができた。

● 環境情報の共有化促進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
環境家計簿の活用や水質等の簡易測定など、環境モニター制度を充実させ、市民・事業者との情報共有に努めます。	環境保全課	環境推進市民会議委員により環境家計簿の普及啓発を実施。	環境家計簿の普及啓発ができた。 環境家計簿 68 枚提出
「印西市環境白書」を作成し、市民・事業者等へ公開します。	環境保全課	環境白書の作成、公表。	内容等の充実を図り、市民等に見やすい環境白書を作成。

■ 個別目標⑭ 環境について学び、理解する

● 環境イベントなどの充実

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
環境関連施設の見学会や市民参加の環境調査など、環境に関するイベント等を企画・開催し、普及啓発を図ります。	環境保全課	環境フェスタ、環境関連施設の見学会を継続して実施。 市民団体が主催する手賀沼流域フォーラムイベントの周知及び協力を実施。	各種イベントの開催などにより市民に意識啓発を図ることができた。
環境に関する生涯学習を推進します。	生涯学習課	中央公民館主催事業 「印西市民アカデミー」において、環境に関する講座を実施。 ①エコ調理実習 19名参加 ②環境問題と食料 17名参加 ③次世代へつなぐ環境を学ぶ 15名参加	例年、実施している講座だが、身近な問題である食料にテーマを絞っているの で、受講生も大いに興味を持って参加 できた。
		中央駅前公民館主催事業 「はつらつクラブの中で、「初秋の里山自然ウォーク」を予定していたが、雨天により北総地区里山の自然について学ぶ。 参加者15名	パワーポイントのスライドとDVD鑑賞で自然の大切さを感じるとともに、自然を守ることを考えるきっかけづくりとなった。
		小林公民館主催事業 「遊び発見隊」の宿泊会を自然環境豊かな長生郡長柄町で実施し、クイズを解きながらの自然散策や水辺の植物・生物の観察等を行った。参加者8名	遊びを通じた自然環境とのふれあいにより、環境の保全についてより身近に考える機会を提供できた。
		そうふけ公民館主催事業 小学生 4～6年生を対象にしたカヌー体験を実施し、自然環境についての啓発に努めた。	カヌー体験を通して、自然の大切さを実感してもらうことができた。
		①「印西市とその周辺地域の歴史・文化財について学ぶ」 市民を対象に全2回実施。のべ11名参加。 ②「四季の里山を観察し、ホタルや野鳥観察を通し自然と触れ合い環境保護について学ぶ」 小学生と保護者を対象に全5回実施。のべ61名参加。	四季の里山に触れ、動植物の自然観察を通じて子どもたちに自然の大切さやそれを取り巻く環境の重要性を学んでもらうことができた。
		歴史民俗資料館で企画展示「印旛沼の水草」と解説会を開催した。	県立中央博物館の協力、NPO いんばとの協働開催により多種多様の情報、資料の展示が実現し、印旛沼の昔と今について周知を図ることができた
市民・事業者などが開催する環境に関する活動や観察会を支援します。	環境保全課	市民団体等が開催するイベントの周知等に協力。	市民主体によるイベントが実施されることにより、市民間で環境に対する意識の高揚が図られた。

● 学習教材の充実、指導者の育成

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
環境学習パンフレット、教材を 収集・整理し、提供します。	環境保全課	環境白書などを関係各機関に提供した。	学校などに環境関連資料を配布し、環境意識の普及啓発につなげることができた。
市職員の環境研修を実施し、環境に関する理解を深めます。	環境保全課	各課等に環境推進主任の設置し、庁内エコプランについての取り組みの推進を依頼。	庁内エコプランを継続して推進することにより職員の意識向上が図られた。
学校などの要請に応じて、適した指導者を派遣できるように、学校支援ボランティアリストを整理します。	指導課(教育センター)	・学校支援ボランティアリストに 398 名の登録があり、のべ 764 名が活用された。 764 名の活用者数のうち、未登録活用者数はのべ 383 名であった。 ・環境整備作業では、親子環境整備美化作業として学校行事として取り組む学校もあった。 ・環境学習指導者としては、里山の自然について、印旛沼の自然について、メダカの生態について、総合的な学習の時間に外部講師として活用した学校があった。	・環境整備作業は、各学校の募集・呼び掛けにより、年度当初の登録者だけでなく、未登録者の支援が多かった。 ・剪定作業など特殊な技術を要する作業について、ボランティアの協力が大変役立った。 ・学区の特性を生かした環境学習への取り組みがみられた。
環境教育に携わる指導者を育成するしくみづくりを検討します。	環境保全課	県主催の環境講座を紹介し、市民参加を促した。	県等で主催する環境講座の紹介はできるが、市独自の環境講座の開催には至っていない状況である。

● 学校における環境教育・環境学習の推進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
体験学習を取り入れた環境教育・環境学習を推進します。	環境保全課	自然探検隊を 3 回実施。 参加者のべ 76 人。	環境学習を通し、市民に印西市に残された自然環境とそこに生息する生物の実態を確認し、市民の環境保全に対する意識の高揚が図られた。
小・中学校での環境に関する学習内容の充実を図ります。	指導課(教育センター)	・4 年生社会科では、地域の水道事業や廃棄物処理施設の学習の中で、資源・エネルギー問題や資源ごみの活用等についても学んでいる。学習の中で、積極的に施設を見学したり外部講師として施設職員を招いたりして、環境保全に対する意識の向上を図ることができた。 ・総合的な学習のテーマとして「里山」を取り上げた学校もあった。 ・教育センターで行われた里山観察会等について、教育センターホームページ等で実践事例を各校に示した。	・総合的な学習、社会科、技術・家庭科、特別活動等で積極的に環境学習が取り入れられた。(ゴミのリサイクル、エコッキングなど)。また、外部人材を活用した授業は 16 校で行われており、学習への理解を深めるとともに自分の生活を見つめ直すきっかけともなった。 ・教育センターで行われた里山観察会等について、実践事例を各校へ広めることができた。
こどもエコクラブの設立と情報提供などによる活動の支援を行います。	環境保全課	既存のエコクラブに対し、必要な情報及び資料等の提供の実施。	情報及び資料の提供はできたが、参加団体を増やすことはできなかった。

■ 個別目標⑮ 環境活動を進める

● 地域における環境活動の推進

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
「ゴミゼロ運動」、「クリーン印西推進運動」を継続実施し、環境美化に対する意識啓発を図ります。(再掲)	クリーン推進課	下記の運動を実施した。 ゴミゼロ運動 参加者 12,992 人 回収量 35,750 kg クリーン印西推進運動 参加者 40,549 人 回収量 26,060 kg 統一美化キャンペーン 参加者 7,055 人 回収量 12,460 kg	ゴミゼロ運動、クリーン印西推進運動及び統一美化キャンペーンを通じて、のべ60,596 人の参加をいただき、環境美化意識の向上を図ることができた。
町内会や自治会など市民が各地域で行う自主的な環境活動を支援します。	市民活動推進課	市民活動活性化助成金を各町内会等に交付し、活動の活性化に寄与した。	市民活動活性化助成金を162の町内会等に交付し、活動の活性化に寄与した。
「印西市環境行動指針」・「環境家計簿」の普及啓発を図ります。	環境保全課	環境推進市民会議委員により環境家計簿の普及啓発を実施。	環境家計簿の普及啓発ができた。 環境家計簿 68 枚提出
「庁内エコプラン」に基づいて、市の事務・事業における環境配慮を進めます。	環境保全課	各課等に環境推進主任の設置し、庁内エコプランについての取り組みの推進を依頼。	庁内エコプランを継続して推進することにより職員の意識向上が図られた。
環境保全を図る活動等を行うNPOなどの市民活動団体や事業者に対する支援を行います。	市民活動推進課	公益信託印西市まちづくりファンドより資金を拠出し、市民活動を支援した。	公益信託印西市まちづくりファンドより環境関係団体(3 団体)に助成を行った。

● パートナーシップの構築

個別目標の達成に向けた取組み	担 当 課	平成22年度終了時 進捗(実施)状況	平成22年度 事業の評価
環境活動に関する情報提供・共有に努め、環境活動の組織づくり、人づくりを進めます。	環境保全課	環境推進市民会議・環境推進事業者会議を継続して開催するとともに、合同で会議を開催し、環境基本計画の進捗状況について意見を抽出するとともに意見交換を行った。	環境基本計画の進行管理に対する市民・事業者の意見をうかがうことができた。
「印西市環境推進会議」と協働して、環境にやさしい行動を推進します。	環境保全課	環境推進市民会議委員により環境家計簿の普及啓発を実施。	環境家計簿の普及啓発ができた。 環境家計簿68枚提出
市民や事業者などと、環境活動の実施内容の報告や意見交換を図る場を設けます。	環境保全課	環境推進市民会議・環境推進事業者会議を継続して開催するとともに、合同で会議を開催し、環境基本計画の進捗状況について意見を抽出するとともに意見交換を行った。	環境基本計画の進行管理に対する市民・事業者の意見をうかがうことができた。